

第67回 北海道高等学校バスケットボール選手権大会 大会展望

6月19日から22日にかけて、インターハイ北海道予選が北見市を中心に開催される。参加校は各地区の予選を勝ち抜いた男子28校、女子23校の計51チームである。

【男子】

Aブロックでは、第1シードの東海大四が高さと速さを兼ね備えたバランスの良い戦力で頭一つ抜きん出ている。旭川地区を制した旭川大学高校が、東海大四を相手にどのような戦いを見せるのか興味深い。

Bブロックは今大会一番の激戦ブロックとなった。恵庭南対海星学院、旭川工業対白樺学園、それぞれの勝者が2回戦で激突し、この試合を制したチームがブロック決勝へと駒を進める。迎え撃つであろう札幌日大は1年生から3年生まで個人技の高い選手がそろったチームである。実力が伯仲したチームが揃っており、目の離せないブロックとなりそうだ。

Cブロックは、順当にいけば駒大苫小牧と札幌月寒の決勝となるだろう。全道新人大会では1ゴール差で決着がついたが、今大会も1点を争う好ゲームになるはずだ。

Dブロックでは、堅固なディフェンスと高いシュート力を有する第2シードの札幌工業が最有力。また、札幌地区大会で快進撃を見せた札幌南高校にも期待をしたい。

【女子】

Aブロックでは、札幌山の手の優位は揺るがない。王者山の手に対して、北星女子がどのような戦い方を見せてくれるだろうか。

Bブロックでは、昨年全国大会を経験した札幌東商業の力が抜きん出ている。各チームが打倒札幌東商業を目指す展開となるだろう。

Cブロックには各地区の1位が多く入り、好ゲームが期待できるブロックとなった。各チームとも実力が均衡しており、各地区のプライドをかけた戦いが予想される。

Dブロックは今回1番の激戦ブロックとなった。昨年決勝リーグまで駒を進めた旭川藤、室蘭海星に対し、とわの森三愛がどこまで迫れるかが注目される。

全国行きの2枚の切符をかけた4チームによる決勝リーグは21日の午後から始まる。混戦が予想される決勝リーグでは、最後まで熱い戦いが続くであろう。

文責：北海道バスケットボール協会強化委員会